BOTANICAL LIFE
東京在住外国人の視点で
緑を知るコラム

住宅街の裏道、寺社、バルコニーがおもしろい!

東京で見つける小さな緑

text & photograph_ Jared Braiterman

LiVES meets

TOKYO GREEN SPACE

アメリカから訪ねてきた友人たちは東京に緑が多いことに必ず驚きます。アメリカのメディアでは、東京というと、渋谷の交差点や歌舞伎町の繁華街のイメージばかりを繰り返すので、プラスチックのように無機質な街模様しか思い浮かべられないのです。極端な人になると、SF映画『ブレードランナー』やアニメ映画『アキラ』に出てくる風景を東京だと信じている人もたくさんいます。私が初めて東京を訪れたのは1999年ですが、やはり同じようなイメージを描いていたと思います。

確かに、多くのオフィス街や駅周辺のビルが密集している区域には、木や植物がほとんどなく殺風景です。『アキラ』に出てくる場面とあまり変わりません。管理やコストを心配しすぎるために、意識的に緑を排除してしまっているようです。しかし、ちょっと裏道に入って住宅地を歩いてみると、私が長年住んでいたサンフランシスコには見られないような緑がたくさん存在しています。しかも、行政や大手企業によって計画されたものではなく、それぞれの住民が独自でつくり出し、何気なく地元のコミュニティーとシェアしているのです。

: STREET GARDENS

1

2

デザイン関係の仕事を持つアメリカ人にとって、とても面白いと感じる東京の緑は、日本人がちょっと「ダサい」または「格好わるい」と思っているものです。例えば、私がよく散策する中野区や新宿の近所で、狭い路地にたくさん植木鉢を出している家が多くあります。並べ方はどちらかというと無造作で、高級感を出そうという意識はあまりなさそうなのですが、植物が好きでたまらない、限られた場所をぎりぎりまで使ってみよう、という情熱が伝わってきます。場合によっては、公道に少しはみ出しているところもあり、公有と私有の境界線をぼやけさせているのも魅力です。そのような家がいくつかある路地は、足を踏み入れたとたんに感じるオーラが違います。デザインに携わるアメリカ人にとって東京で一番素敵だと思うのは表参道や青山通りのような大通りではなく、狭い路地なのです。アメリカの都市には存在しないからです。しかも、ちょっと不器用だけれどやさしい緑のある路地はインスピレーションでいっぱいです。整然と管理された緑よりも、有機質な感触にあふれています。

: TEMPLES AND SHRINES WITH TREES

もう一つ、東京で魅力的な緑は神社やお寺の敷地です。アメリカの街には教会がありますが、その数は東京にある寺・神社の数の足元にも及びません。区に管理されている近所の公園が味気ないのに対して、寺・神社の緑は種類も多く、経

ジャレド・ブレイタマン

1964年 米ボルティモア生まれ。東京で暮らすデザイン人類学者。ハーバード大学学士号、スタンフォード大学博士号を修得。2009年から2011年まで、東京農業大学の研究員として従事。

http://tokyogreenspace.com

LiVES meets

TOKYO GREEN SPACE

アメリカ人のデザイン人類学者、ジャレド・ブレイタマンさんは自身のブログ「Tokyo Green Space」で東京の緑について日々考察しています。私たち日本人はすっかり見慣れてしまった、東京の緑のある風景。外国人にはどのように映るのでしょうか。

1 廃車？ の上を植木鉢で覆っている。
2 歩道で見つけたスープ鍋のなかの緑。
3 首都高速道路の高架下にひっそり佇む日本橋・兜神社のイチョウの木。
4 しめ縄が巻かれた明治神宮の御神木 。
5 中野にある自宅バルコニーの様子。新緑がきれいな夏に撮影したもの。
6 琉球朝顔など蔓系の植物も育てている。洗濯バサミ越しに富士山を望む。

験のある庭師によって剪定されているので、木の形も自然で美しい。私の住むマンションの近くにあって、よく行く氏神様は、とても小さいのですが中野区に保護された古いカヤやイチョウがあります。これが神社の敷地でなかったら、これらの木はもう存在していなかったかもしれません。

: OUR BALCONY

住んでいるマンションは 1LDK で、幅 1 メートル、長さ 5 メートルのベランダがあります。狭い場所ですが、約 200 種類の植物がいつも育っています。オリーブ、カナメモチ、ブルーベリー、ツバキ、ローズマリーは今年で 5 年目です。スペースが限られているので、ベランダの柵から洗濯物を干すロープの間に麻縄でグリーンカーテン用のネットをつくり、縦の空間も活用しています。今年は、クレマチスと琉球朝顔がグリーンカーテンの主役になりそうです。過去にはゴーヤ、キュウリ、スイカを使ったこともあります。

もう一つ、ここで自慢なのが自作の植木鉢です。私がお仕事をさせていただいている杉並区の『手仕事屋久家（てしごとやくげ）』で制作したものです。普通の植木鉢やプランターばかりでは、せっかくの緑も映えないので、自分でデザインしました。

私がよくバルコニーガーデンでアドバイスすることがあって、それは何でも試してみるということ。色々試してみるうちに、自分がどんな植物が好きなのか、どんな植物がこのバルコニーガーデンに向いているかがわかります。枯れてしまってもめげないで、新しいものをすぐに買ってくる。私は今年、初めてモンキーバナナに挑戦しています。

デザイン人類学者としては、東京の路地やバルコニーでたくさん植物を育てている「格好わるい」人たちが、実は、東京の魔法を持続させているということを日本と外国の両方に知ってほしいと願っています。狭いスペースでも緑を育てることで、コミュニティー自体を変えているという事実。例えば、いつも通勤や通学で通りかかる人が、実はあなたの緑を見ることを楽しみにしている、その人の 1 日をちょっと素敵にしている。すごいことだと思いませんか。

http://tokyogreenspace.com